

第1章 第6期先進安全自動車（ASV）推進計画の活動概要

1. ASV推進計画の目的とこれまでの取り組み.....	1
2. 第6期ASV推進計画検討の背景.....	2
3. 第6期ASV推進検討会	3
3.1 第6期ASV推進検討会メンバー	3
3.2 第6期ASV推進計画の活動概要と推進検討会の経緯.....	5
3.2.1 平成28年度（2016年度）ASV推進計画の活動概要.....	5
3.2.2 平成29年度（2017年度）ASV推進計画の活動概要.....	6
3.2.3 平成30年度（2018年度）ASV推進計画の活動概要.....	9
3.2.4 平成31（令和元）年度（2019年度）ASV推進計画の活動概要.....	12
3.2.5 令和2年度（2020年度）ASV推進計画の活動概要.....	15
4. 第6期ASV推進計画を紹介するパンフレットの制作.....	17
5. 資料	17

1. A S V推進計画の目的とこれまでの取り組み

先進安全自動車（A S V¹）推進計画（以下、「A S V推進計画」という。）は、A S V技術の開発・実用化・普及を促進するため、各種ガイドラインの策定等、新技術を市場投入しやすい環境整備を行い、もって交通事故の削減に貢献することを目的としている。

A S V推進計画の取組は、1991年度からスタートし、第5期まで25年の長期にわたり計画を推進してきたところである。以下に過去の取組と成果についてその概要を記載する。

◆ 第1期 平成3～7年度（1991～1995年度）「技術的可能性の検討」

1991年度から5か年の第1期では「技術的可能性の検討」のテーマのもと、A S V車両の試作と技術的可能性の検証やA S V技術の効果予測手法の開発と効果の試算を行なった。

◆ 第2期 平成8～12年度（1996～2000年度）「実用化のための条件整備」

1996年度からの第2期では「実用化のための条件整備」のテーマのもと、A S V基本理念の策定、A S V技術開発の指針等策定、事故削減効果の検証を行い、路車間通信型システムの実証実験やA S V車両35台によるデモ走行と技術展示を実施した。

◆ 第3期 平成13～17年度（2001～2005年度）「普及促進と新たな技術開発」

2001年度からの第3期では「普及促進と新たな技術開発」のテーマのもと、運転支援の考え方の策定、A S V普及戦略の策定、通信技術を利用した技術開発の促進を行い、「A S Vの基本理念」の細則化と「運転支援の考え方」の策定を行ったほか、情報交換型運転支援システムの公開実験を実施した。

◆ 第4期 平成18～22年度（2006～2010年度）「事故削減への貢献と挑戦」

2006年度からの第4期では「事故削減への貢献と挑戦」のテーマのもと、交通事故削減効果の評価手法の検討及び評価の実施、通信利用型システム実用化の検討を行い、テストコースや東京、愛知等の地域の公道において大規模実証実験を実施したほか、「通信利用型実用化システム基本設計書」をとりまとめた。

◆ 第5期 平成23～27年度（2011～2015年度）「飛躍的高度化の実現」

2011年度からの第5期では、A S V技術の「飛躍的高度化の実現」というテーマのもと、大きく3つの項目について検討を行い、「A S V技術の飛躍的高度化に関する検討」では、ドライバー異常時対応システム（減速停止型）基本設計書の作成、過信の発生を抑制するための設計上の配慮事項の作成、複数のシステムが同時に作動す

¹ A S VはAdvanced Safety Vehicleの略で、先進技術を利用してドライバーの安全運転を支援するシステムを搭載した自動車を指す。

る場合の支援の優先度の考え方の明確化を実施、「通信利用型安全運転支援システムの開発促進に関する検討」では、通信利用歩行者事故防止支援システム基本設計書作成や通信利用型運転支援システム基本設計書改訂版作成を実施、さらに「ASV技術の理解及び普及促進に関する検討」では、第43回及び第44回東京モーターショーへのブース出展や、ITS世界会議2013東京での通信利用型システムのデモンストレーション実施を通じて、ASV技術に対する一般ユーザーの理解促進に取り組んだ。

2. 第6期ASV推進計画検討の背景

第5期ASV推進計画終了時までのASV技術は、安全な運転をなすべき主体はドライバーであり、ドライバーを支援する前提（ドライバー支援の原則）のもとに検討され、設計・開発されたものであった。そのドライバー支援の原則に基づいて開発された衝突被害軽減ブレーキや車線逸脱警報装置等のASV技術は、センサー技術や情報処理技術等の進化と相まって市販車への搭載が進んできた。

また、交通安全の飛躍的向上や利便性の向上等の可能性があることから、自動運転車の議論が活発化し、官民ITS構想・ロードマップでは自度運転の定義やレベル分けがまとめられ、システムがドライバーの運転の一部又は全てを行う自動運転に対する期待感が高まっていた。

ASV技術はドライバー支援の原則により、システムがドライバーの運転の一部又は全てを行う自動運転について扱っていないものの、自動運転は、その実現に向けて、これまでのASV技術を統合・発展する形で技術開発が進みつつあった。

ASV推進計画は、技術の開発・実用化・普及を促進することにより交通事故削減に貢献するという目的に鑑み、システムがドライバーの運転の一部又は全てを行う自動運転をASVに取り入れて検討することとなった。

一方、ドライバーの新技术に対する過信・誤解等が原因で事故が発生するおそれがあるため、ASV技術に関するドライバーの正しい理解を醸成・促進する必要がある。

3. 第6期ASV推進検討会

平成28年(2016年)11月16日に第1回ASV推進検討会を開催し、第6期ASV推進計画(以下、「第6期ASV」という。)では、前述の状況を踏まえ、「自動運転の実現に向けたASVの推進」を基本テーマに、「自動運転を念頭においた先進安全技術のあり方の整理」「開発・実用化の指針を定めることを念頭においた具体的な技術の検討」「実現されたASV技術を含む自動運転技術の普及」の3つの具体的なテーマについて承認され、第6期ASVを遂行することとなった。

3.1 第6期ASV推進検討会メンバー

第6期ASVにおけるASV推進検討会のメンバーは、第5期の検討会メンバーをはじめ、同分科会、WG(ワーキンググループ)及びTF(タスクフォース)における議論から更なる検討が望まれる課題等を鑑み、新たな有識者も加えた。25年間座長を務められた東京大学 井口名誉教授に代わり、新たに東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構長 須田教授が座長に選任された。ASV推進検討会メンバーは、学識経験者8名、四輪車・二輪車・自動車部品メーカー15名、関係団体5名、関係省庁3名、研究所2名、オブザーバー5名で構成し、国土交通省自動車局技術政策課(令和2年(2020年)4月1日より「技術・環境政策課」)及び道路局道路交通管理課ITS推進室を事務局とした。令和3年(2021年)3月時点のASV推進検討会の委員は以下のとおりである。

敬称略、順不同

◎ 座長

【委員】

- | | | |
|--------|-----------------|----------------------------------|
| ◎須田 義大 | 東京大学 | モビリティ・イノベーション連携研究機構長 |
| 池田 良彦 | 東海大学 | 法学部客員教授 |
| 稲垣 敏之 | 筑波大学 | 副学長(総務・人事担当) 理事 |
| 春日 伸予 | 芝浦工業大学 | 工学部 電気工学科 教授 |
| 河合 英直 | 独立行政法人 | 自動車技術総合機構 交通安全環境研究所
自動車安全研究部長 |
| 古川 修 | 芝浦工業大学 | 名誉教授 |
| 益子 邦洋 | 医療法人社団永生会 | 南多摩病院 院長 |
| 室山 哲也 | 日本科学技術ジャーナリスト会議 | 会長 |
| 藤井 威生 | 電気通信大学 | 先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター長 |
| 大平 隆 | いすゞ自動車株式会社 | 技術本部 開発部門常務執行役員 |
| 吉武 秀人 | 川崎重工業株式会社 | モーターサイクル&エンジンカンパニー
技術本部長 理事 |

高柴 久則	スズキ株式会社 常務役員 四輪電気・電子技術本部長
藤貫 哲朗	株式会社SUBARU 執行役員 CTO (最高技術責任者) 技術統括本部長 兼 技術研究所長
三嶋 英二	ダイハツ工業株式会社 車両開発本部長
鯉淵 健	トヨタ自動車株式会社 先進技術カンパニー先進安全領域統括部長
吉澤 隆	日産自動車株式会社 電子技術・システム技術開発本部 理事
奥山 宏和	日野自動車株式会社 先進技術本部 副領域長
大津 啓司	本田技研工業株式会社 執行職
今田 道宏	マツダ株式会社 統合制御システム開発本部長
原 徹	三菱自動車工業株式会社 理事 第二車両技術開発本部長
恩田 実	三菱ふそうトラック・バス株式会社 開発本部副本部長 エンタィヤービークル開発統括部長
島本 誠	ヤマハ発動機株式会社 取締役 上席執行役員 モビリティ技術本部本部長
平塚 龍太	UDトラックス株式会社 開発部門執行役員常務
武内 裕嗣	株式会社デンソー 経営役員
荻原 正吾	公益社団法人全日本トラック協会 交通環境部調査役
島崎 有平	一般社団法人日本自動車販売協会連合会 常務理事
島 雅之	一般社団法人日本自動車連盟 専務理事
宇田川 智弘	一般社団法人日本損害保険協会 理事 業務企画部長
田中 宏	公益社団法人日本バス協会 技術安全部長
村田 智史	一般財団法人日本自動車研究所 理事
牧野 充浩	警察庁 長官官房 参事官
江原 真一郎	総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課 新世代移動通信システム推進室 課長補佐
植木 健司	経済産業省 製造産業局 自動車課 ITS・自動走行推進室長

【オブザーバー】

和辻 健二	一般社団法人日本自動車工業会 常務理事
関口 清則	一般社団法人日本自動車部品工業会 技術部長
碓 孝浩	日本自動車輸入組合 参与・技術部長
古賀 康之	内閣府 政策統括官 (科学技術・イノベーション担当) 付参事官 戦略的イノベーション創造プログラム 自動運転担当
平井 淳生	内閣官房 情報通信技術 (IT) 総合戦略室 内閣参事官

3.2 第6期ASV推進計画の活動概要と推進検討会の経緯

3.2.1 平成28年度（2016年度）ASV推進計画の活動概要

第6期ASVの初年度にあたり、第5期までの活動内容を振り返るとともに、近年の先進安全技術を統合・発展させる形で自動運転の実用化に向けた新技術の開発、システムの高度化に係る検討が進められている状況や第10次交通安全基本計画等の背景を踏まえ、基本テーマを「自動運転の実現に向けたASVの推進」として活動計画を具体的に検討した。具体的なテーマについては、(1)自動運転を念頭においた先進安全技術のあり方の整理、(2)開発・実用化の指針を定めることを念頭においた具体的な技術の検討、(3)実現されたASV技術を含む自動運転技術の普及の3点を柱として、以下の8つのテーマとすることを決定した。

検討体制については、第5期を踏襲して、図3-1²に示すとおり「ASV推進検討会」を最上位検討会議体として設置し、その下に、「実用化されたASV技術の更なる普及」を目標とする「先進安全技術普及分科会」、「先進安全技術に基礎を置く自動運転技術の開発促進」を目標とする「将来技術実用化分科会」の2つの分科会を設置した。

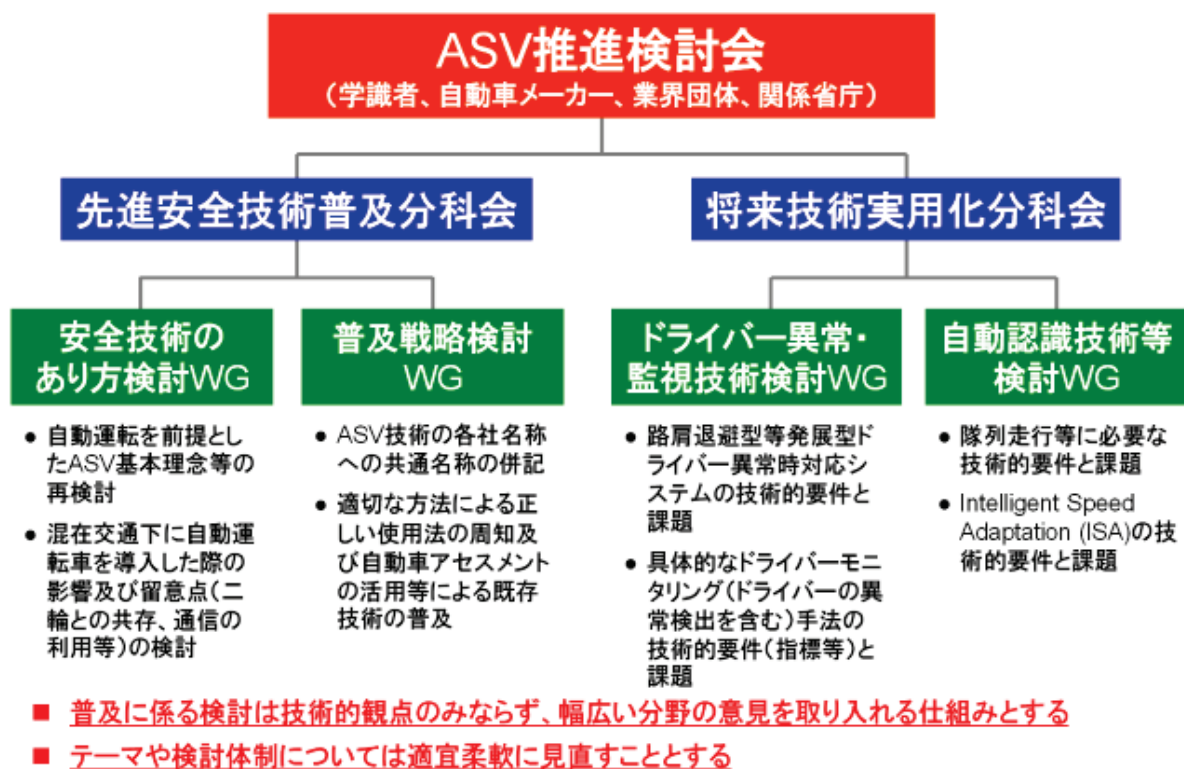


図3-1 第6期先進安全自動車（ASV）推進計画の検討体制

【検討テーマ】

(1) 自動運転を念頭においた先進安全技術のあり方の整理

- ①自動運転を前提としたASVの基本理念等の再検討
- ②混在交通下に自動運転車を導入した際の影響及び留意点(二輪との共存、通信

² 第6期ASV推進計画の開始時点の体制を示す。

の利用等) の検討

(2) 開発・実用化の指針を定めることを念頭においた具体的な技術の検討

- ③路肩退避型等発展型ドライバー異常時対応システムの技術的要件と課題
- ④具体的なドライバーモニタリング(ドライバーの異常検出を含む)手法の技術的要件(指標等)と課題
- ⑤隊列走行や限定地域における無人自動運転移動サービスの実現に必要な技術的要件と課題
- ⑥自動速度制御装置(ISA³)の技術的要件と課題

(3) 実現されたASV技術を含む自動運転技術の普及

- ⑦ASV技術の共通定義及び共通名称の見直し(各社名称との関連付け)
- ⑧正しい使用法の周知及び自動車アセスメントの活用等による既存技術の普及

◆第1回ASV推進検討会

平成28年(2016年)11月8日開催(於:TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター)

議題

(1) 委員紹介、座長・副座長選出

委員及びオブザーバーの紹介と挨拶の後に、第6期ASV推進検討会の開催要領を事務局が説明して了解された。さらに開催要領に従い、須田義大 東京大学教授が座長として承認されるとともに、稲垣敏之 筑波大学大学院 副学長が副座長として承認された。

(2) ASV推進計画のこれまでの活動と現在の状況について

第6期ASVの立上げにあたり、第1期から第5期までの活動と現在の状況について、事務局より説明が行われた。

(3) 第6期ASVにおける検討テーマ・体制について

第6期ASVにおける検討テーマ案、体制案、及びスケジュール案が審議され、委員の承認を得た。

なお、検討テーマ及び体制は図3-1に示すとおり、「先進安全技術普及分科会」の下には、「安全技術のあり方検討WG」「普及戦略検討WG」の2つのWGを設け、「将来技術実用化分科会」の下には、「ドライバー異常・監視技術検討WG」「自動認識技術等検討WG」の2つのWGを設けて、8つのテーマを検討することとなった。また、検討体制は適宜柔軟に見直しを検討することとなった。

3.2.2 平成29年度(2017年度)ASV推進計画の活動概要

前年度に引き続き各WGが開催され、各種の検討事項について審議が進められた。また、各WGリーダーによるリーダー事務局会議も適時開催された。

前年度に引き続き分科会・推進検討会については、平成29年(2017年)8月23日に

³ Intelligent Speed Adaptation

第2回将来技術実用化分科会、同年8月25日に第2回先進安全技術普及分科会、同年9月8日に第2回ASV推進検討会が開催され、各WGの目標、検討項目、及び今後の進め方について審議が行われ、委員の承認を得た。

さらに、平成30年(2018年)3月14日に第3回将来技術実用化分科会、同年3月28日には第3回ASV推進検討会が開催され、平成29年度(2017年度)の活動報告について承認を得るとともに、ドライバー異常時対応システム(路肩退避型)基本設計書、ドライバー異常自動検知システム基本設計書についても委員の承認を得た。

◆第2回ASV推進検討会

平成29年(2017年)9月8日開催(於:TKPガーデンシティ御茶ノ水)
議題

(1) 第6期ASV推進検討会の活動概要

第6期ASVにおける検討テーマと体制をリマインドしたうえで、先進安全技術普及分科会及び将来技術実用化分科会における検討テーマ、目標とする成果、及び活動日程等の概要について事務局より説明された(図3-2、図3-3)。

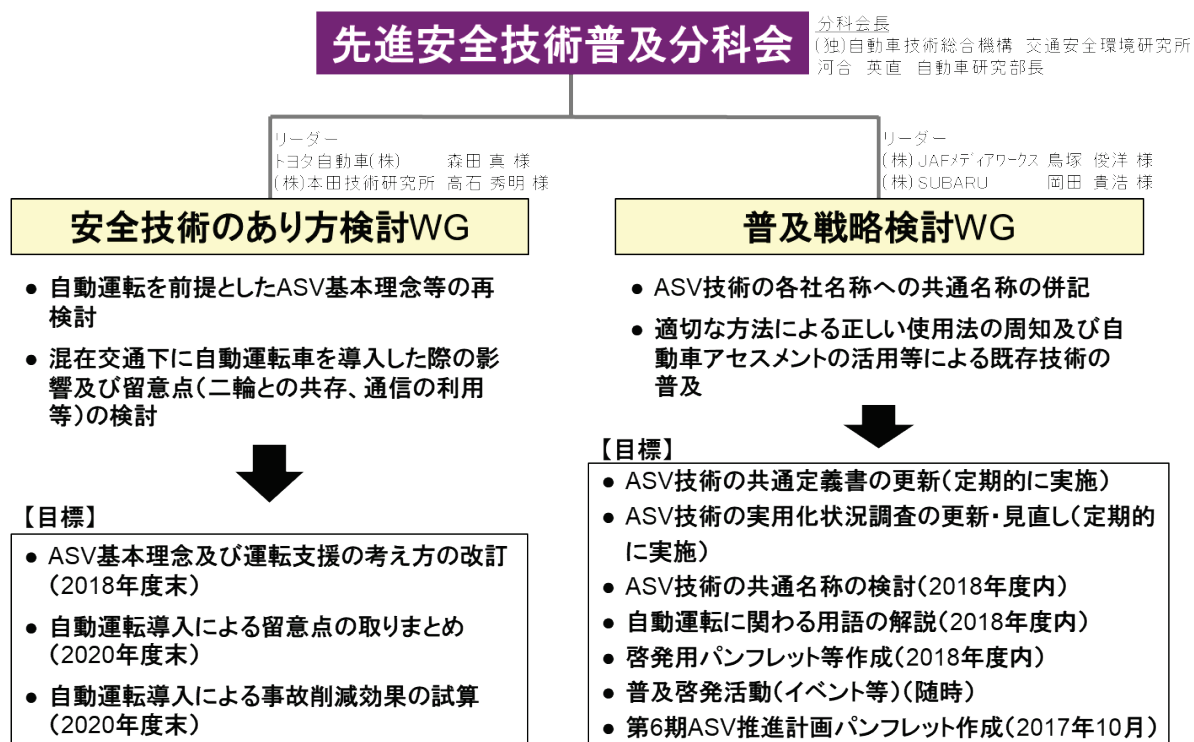


図 3-2 先進安全技術普及分科会における検討テーマ及び体制

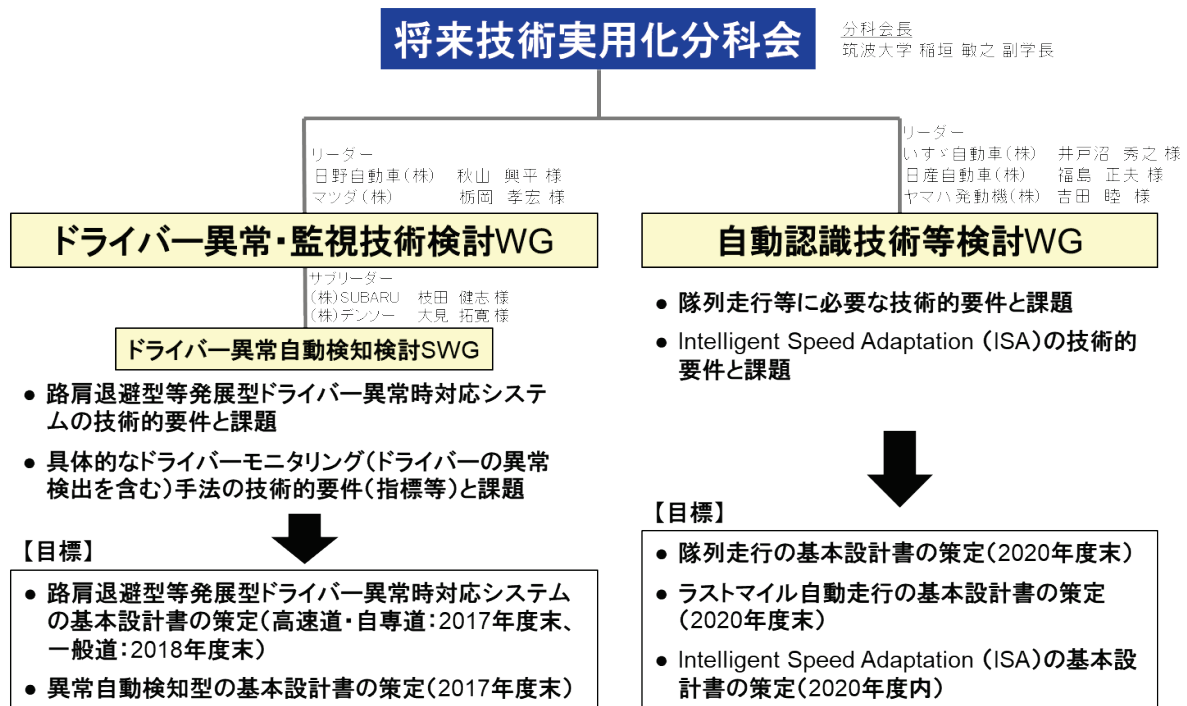


図 3-3 将来技術実用化分科会における検討テーマ及び体制

検討体制については、ドライバー異常・監視技術検討WGの下には、ドライバーの異常検出に特化したドライバーモニタリング手法の検討を行う、「ドライバー異常自動検知検討SWG」が設置された(図3-3)。

(2) 先進安全技術普及分科会からの報告

安全技術のあり方検討WG及び普及戦略検討WGにおける具体的な検討項目、目標とする成果、及び今後の進め方について分科会長より報告され、委員の承認を得た。

(3) 将来技術実用化分科会からの報告

ドライバー異常・監視技術検討WG及び自動認識技術等検討WGにおける具体的な検討項目、目標とする成果、及び今後の進め方について分科会長より報告され、委員の承認を得た。

(4) 第6期先進安全自動車(ASV)パンフレットについて

平成29年(2017年)10月開幕の第45回東京モーターショーでASV推進計画の取組みを紹介するブース出展の計画、そのタイミングに合わせてのパンフレット制作、出展ブース来場者にパンフレット配布のASV推進計画の啓発活動を実施することが事務局より紹介された。第6期ASV推進計画パンフレットの日本語版を資料編の資料1-1に、英語版を資料1-2にそれぞれ掲載する。

◆第3回ASV推進検討会

平成30年(2018年)3月28日開催(於:TKPガーデンシティ御茶ノ水)
議題

(1) 第6期ASV推進検討会の活動概要

第6期ASVにおける活動計画の概要、各分科会の検討テーマと目標とする成果、及び平成29年度（2017年度）の活動概要と成果が説明された。なお、第3回先進安全技術普及分科会については、ドライバー異常時対応システムの早期実現のため、基本設計書の策定を最優先して人力を尽くすこととなり、平成30（2018）年度に開催することとなった。

（2）将来技術実用化分科会からの活動報告

平成29年度（2017年度）の活動報告について承認を得るとともに、ドライバー異常時対応システム（路肩退避型）基本設計書⁴（案）、ドライバー異常自動検知システム基本設計書（案）についても委員の承認を得た。なお、各WGの主な報告項目は以下のとおりである。

➤ドライバー異常・監視技術検討WG

- ・活動日程及び活動状況
- ・ドライバー異常時対応システム（路肩退避型）の技術要件の検討
ドライバー異常時対応システム（路肩退避型）基本設計書⁴（案）
- ・ドライバー異常自動検知システムの導入検討
ドライバー異常自動検知システム基本設計書（案）

➤自動認識技術等検討WG

- ・隊列走行の基本設計書作成についての検討概要及び今後の進め方
- ・ラストマイル自動運転の基本設計書作成についての検討概要と今後の進め方
- ・自動速度制御装置（ISA⁵）の基本設計書作成についての検討概要

（3）第6期ASV推進計画パンフレットについて

第6期ASV推進計画のパンフレットが委員へ配布され、事務局より説明が行われた。

3.2.3 平成30年度（2018年度）ASV推進計画の活動概要

前年度に引き続き各WG及びSWGが開催され、各種の検討事項について審議を進められた。また、各WGリーダーによるリーダー事務局会議も適時開催された。平成30年（2018年）9月10日に第3回先進安全技術普及分科会、同年9月12日に第4回将来技術実用化分科会、同年10月10日に第4回ASV推進検討会が開催され、活動報告及び今後の進め方について承認を得たほか、電子牽引による後続無人隊列走行システム基本設計書（第一次案）について承認を得た。

さらに、平成31年（2019年）2月28日に第4回先進安全技術普及分科会、同年3月5日に第5回将来技術実用化分科会、同年3月13日に第5回ASV推進検討会が開催され、平成30年度（2018年度）の活動報告について承認を得るとともに、ドライバー異常時対応システム発展型（路肩等退避型）一般道路版 基本設計書（案）、自動速度制御装置（ISA）基本設計書（第一次案）及び側方衝突警報装置 基本設計書

⁴ 高速自動車国道及び自動車専用道路を対象道路としたもの

⁵ Intelligent Speed Advisory, Assistance, Adaptation 等、自動速度制御装置の総称

について承認を得た。

検討体制については、具体的なドライバーモニタリング手法の技術的要件と課題の検討を行う「ドライバーモニタリング手法検討SWG」と、ドライバー異常時対応システムに関わる技術要件のうち、実験による確認が必要となる技術要件の検討及び検証を行う「実験検証SWG」の2つのSWGが、ドライバー異常・監視技術検討WGの下に設置された（図3-4）。

なお、ドライバー異常自動検知検討SWGは、前年度に「ドライバー異常自動検知システム基本設計書」を策定し承認が得られたことから、終了した。

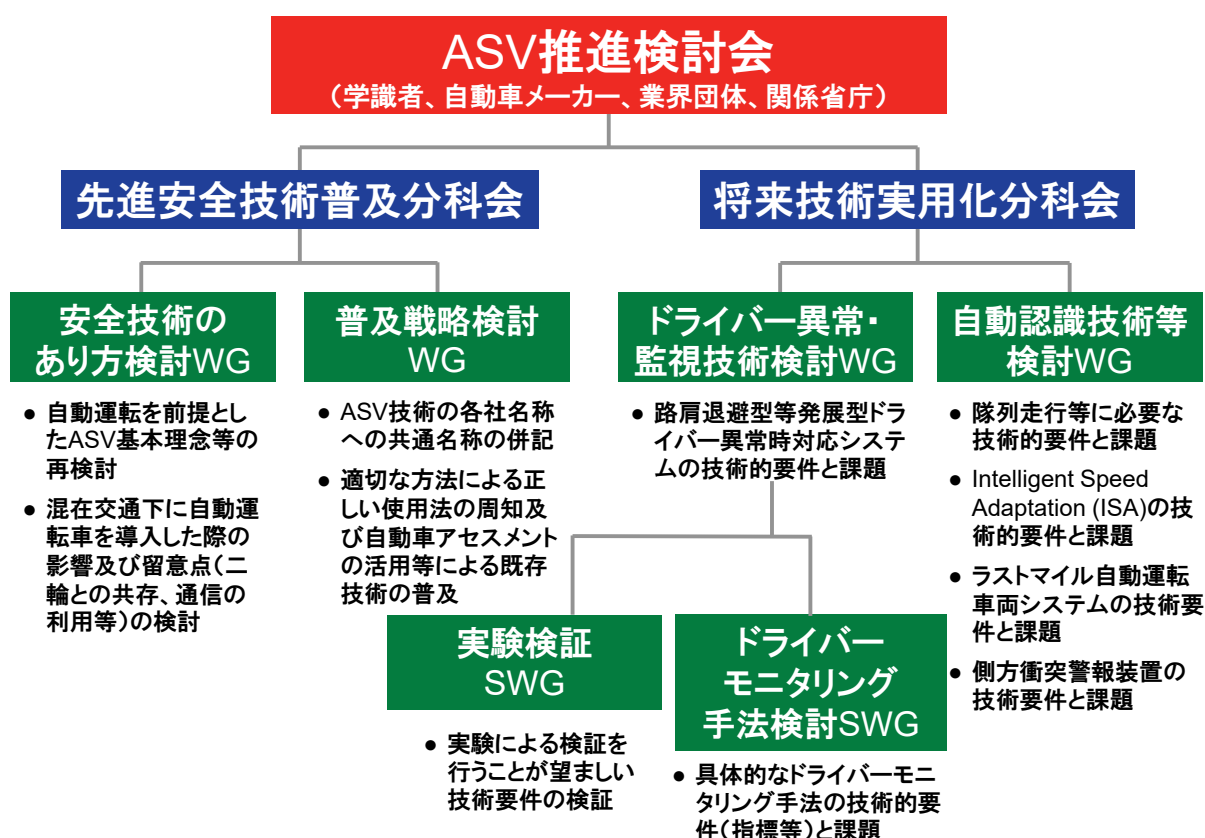


図3-4 第6期ASV推進計画の検討体制（2018年度）

◆第4回ASV推進検討会

平成30年（2018年）10月10日開催（於：TKP ガーデンシティ御茶ノ水）
議題

(1) 先進安全技術普及分科会からの活動報告

安全技術のあり方検討WG及び普及戦略検討WGにおける検討内容及び進め方等について分科会長より報告が行われた。主たる報告項目は以下のとおりである。

➤安全技術のあり方検討WG

- ・自動運転を前提としたASVの基本理念等の再検討

➤普及戦略検討WG

- ・実用化されたASV技術の共通定義 改訂案及び新規追加案

- ・実用化ASV技術の一覧の更新（2018年3月末現在）（案）
- ・運転自動化レベル1および2の車両に対する理解促進のための方策について
- ・自動運転に関わる用語解説（案）

（2）将来技術実用化分科会からの活動報告

ドライバー異常・監視技術検討WG及び自動認識技術等検討WGにおける検討内容及び進め方等について分科会長より報告が行われた。主たる報告項目は以下のとおりである。審議項目の「電子牽引による後続無人隊列走行システム基本設計書（第一次案）」について、委員の承認を得た。

➤ドライバー異常・監視技術検討WG

- ・ドライバー異常時対応システム（路肩退避型）一般道路の技術要件の検討
- ・ドライバーモニタリング手法の技術的要件、指標等の整理、課題等の検討
- ・実験検証項目の選定・検証の進め方について

➤自動認識技術等検討WG

- ・電子牽引による後続無人隊列走行システム基本設計書（第一次案）
- ・ラストマイル自動運転基本設計書作成の検討状況について
- ・自動速度制御装置（ISA）基本設計書作成の検討状況と進め方について

◆第5回ASV推進検討会

平成31年（2019年）3月13日開催（於：TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋）
議題

（1）先進安全技術普及分科会からの活動報告

安全技術のあり方検討WG及び普及戦略検討WGの平成30年度（2018年度）の活動報告、及び平成31年度（2019年度）の活動計画について、分科会長より報告が行われた。

➤安全技術のあり方検討WG

- ・ASVの基本理念と運転支援・自動運転の考え方（案）

➤普及戦略検討WG

- ・主なASV技術の搭載車種一覧に掲載するASV技術（案）
- ・自動運転に関わる用語解説案（改訂案）

主たる審議・報告項目は上記のとおりであったが、平成31年（2019年）3月8日にレベル3の自動運転に関する法制度の整備を目的とする「道路交通法の一部を改正する法律案」が閣議決定され、自動運転システムを使用する運転者は、自動運転中であっても引き続き運転の主体であり、安全運転義務（道路交通法（昭和35年法律第105号）第70条）等の運転操作に係る義務を負うこととなった。当該回のASV技術の考え方等を整理する報告資料等においては、自動運転中は「運転の主体はシステムである」といった表現が用いられていたことから、読み手に対し、自動運転中の運転者は運転操作に係る義務を負わなくなるといった誤解を与え、システムの適切な使用が妨げられ、交通の安全確保に支障が生じる懸念があることが指

摘された。その結果、本推進検討会での承認は見送られ、自動運転中であっても、道路交通法上の運転の主体は運転者であることについて、誤解を生まない表現へ見直すこととなった。

(2) 将来技術実用化分科会からの活動報告

ドライバー異常・監視技術検討WG及び自動認識技術等検討WGにおける活動進捗状況等について分科会長より報告が行われた。審議項目は以下のとおりで、下記を除き委員の承認を得た。「ドライバー異常時対応システム 発展型（路肩等退避型）一般道路版 基本設計書（案）」の「車線変更を行う際の配慮事項」に対する指摘事項については、後日WGにて検討した修正案に対するメール審議が行われ、承認を得た。

➤ドライバー異常・監視技術検討WG

- ・ドライバー異常時対応システム 発展型（路肩等退避型）一般道路版 基本設計書（案）

➤自動認識技術等検討WG

- ・自動速度制御装置（ISA）基本設計書（第一次案）
- ・側方衝突警報装置基本設計書（案）
- ・2018年度電子牽引による後続無人隊列走行システムに関する実証実験（新東名高速道路）結果の概要

3.2.4 平成31（令和元）年度（2019年度）ASV推進計画の活動概要

前年度に引き続き各WG、SWG、TFが開催され、各種の検討事項について検討が進められた。また、各WGリーダーによるリーダー事務局会議も適時開催された。

分科会及び推進検討会については、令和元年（2019年）9月4日に第5回先進安全技術普及分科会、同年10月30日に第6回将来技術実用化分科会、同年11月20日に第6回ASV推進検討会が開催され、それまでの活動報告及び今後の進め方について承認を得るとともに、電子牽引による後続無人隊列走行システム基本設計書の改訂、自動速度制御装置（ISA⁶）基本設計書の改訂、ドライバー異常自動検知システム基本設計書のドライバー異常予兆検知機能追加改訂について、委員の承認を得た。

令和2年（2020年）3月5日に第6回先進安全技術普及分科会、同年3月13日に第7回将来技術実用化分科会、同年3月24日に第7回ASV推進検討会の開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、国土交通省が主催する3月開催予定の全ての会議の延期が決定されたため、全て延期されることになった。

上記の分科会及び推進検討会の延期を受け、審議予定であったASV技術の共通定義 一般向け公開版（案）、新聞雑誌等でよく使われている自動運転用語の概説（案）、レベル3及び4の自動運転車両の名称（案）、ラストマイル自動運転車両システム 基本設計書（案）、統合制御型可変式速度超過抑制装置 基本設計書（案）の5件の検討

⁶ Intelligent Speed Assistance

案について、メール審議を行うこととなった。

検討体制については、将来技術実用化分科会の下に、大型バスで下り勾配の大きい道での速度超過による重大事故の発生をうけ、重量車の速度超過の防止を支援することを目的として統合制御型可変式速度超過抑制装置の技術的要件と課題の検討を行う「統合制御型可変式速度超過抑制装置TF」が設置され、大型車メーカーのASVメンバーにより検討が行われた（図3-5）。

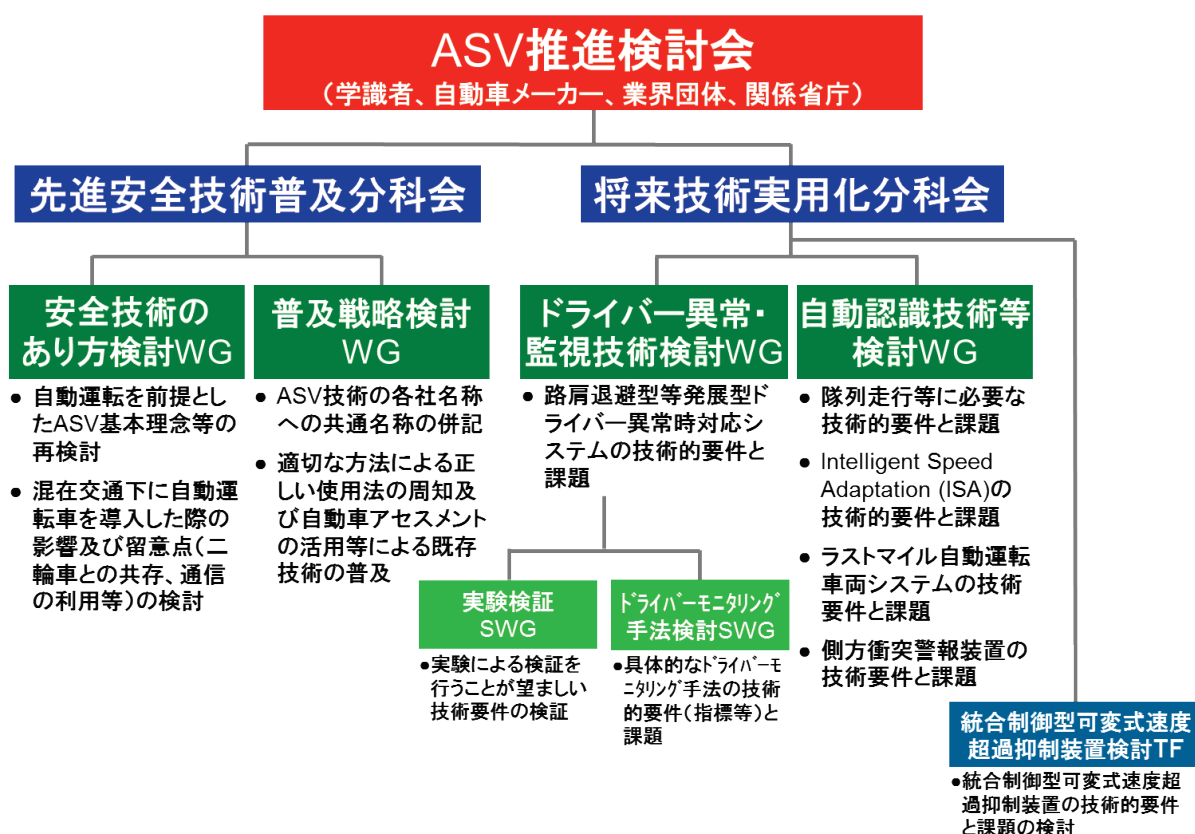


図3-5 第6期ASV推進計画の検討体制（2019年度）

◆第6回ASV推進検討会

令和元年（2019年）11月20日開催（於：TKP新橋カンファレンスセンター）

議題

(1) 先進安全技術普及分科会からの活動報告

安全技術のあり方検討WG及び普及戦略検討WG活動における進捗状況等を分科会長より報告が行われた。以下の審議項目について委員の承認を得た。

➤安全技術のあり方検討WG

- ・ASVの基本理念と運転支援・自動運転の考え方（改訂案）

➤普及戦略検討WG

- ・実用化されたASV技術の共通定義 新技術追加（案）

なお、「ASVの基本理念と運転支援・自動運転の考え方（改訂案）」は、前回の推進検討会で指摘のあった「運転の主体」という表現を「操縦の主体」という表現

に見直した改訂である。

(2) 将来技術実用化分科会からの活動報告

ドライバー異常・監視技術検討WG及び自動認識技術等検討WGにおける活動進捗状況等について分科会長より報告が行われた。以下の審議項目について委員の承認を得た。

➤ドライバー異常・監視技術検討WG

- ・ドライバー異常自動検知システム基本設計書　ドライバー異常予兆検知機能追加改訂（案）
- ・ドライバーモニタリングシステム基本設計書（案）（ドラフト）

➤自動認識技術等検討WG

- ・電子牽引による後続無人隊列走行システム基本設計書（第一次案）改訂（案）
- ・自動速度制御装置（ISA）基本設計書の修正（案）
- ・「周辺環境の認識向上に係る検討」の進め方（案）

◆令和元年度（2019年度）3月のASV推進検討会について

3.2.4節の冒頭で述べたとおり、令和2年（2020年）3月に開催を予定していたASV推進検討会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために延期が決定され、審議予定であった以下については、令和元年度（2019年度）の活動として令和2年（2020年）にメール審議が行われ承認された。

(1) 先進安全技術普及分科会からのメール審議報告

➤普及戦略検討WG

- ・「ASV技術の共通定義　一般向け公開版（案）」（4月審議配信）

優先的に普及促進を図るとしたASV技術の共通定義について、国土交通省の自動車総合安全情報サイトへの公開に向けた分かりやすい記述・見せ方が検討され、ASV技術の共通定義の一般向け公開版が作成された。また、同年8月メール審議において、名称が「主要なASV技術の概要」に改められたことが報告された。

- ・「新聞、雑誌等でよく使われている自動運転関連用語の概説（案）」（4月審議配信）

第5回ASV推進検討会では「自動運転に関わる用語解説案（改訂案）」の名称であったが、対象者が分かりにくい名称であったため、一部マスメディア及び一般の方が対象者と分かる名称とした。

- ・「レベル3及び4の自動運転車両の名称について（案）」（8月審議配信）

レベル3以降の自動運転車両の名称が定められていなかったため、それについて検討され、承認された。

(2) 将来技術実用化分科会からのメール審議報告

➤自動認識技術等検討WG

- ・「ラストマイル自動運転車両システム　基本設計書（案）」（7月審議配信）

関連する国内外プロジェクトの調査、検討項目の抽出等を行いながら、国内におけるラストマイル自動運転車両システムに関する技術的要件を検討、基本設計書が作成された。

➤統合制御型可変式速度超過抑制装置 T F

- ・「統合制御型可変式速度超過抑制装置 基本設計書（案）」（4月審議配信）

大型車の事故対策として、大型バスの下り坂での速度超過の抑制に効果が期待される統合制御型可変式速度超過抑制装置のあり方について、技術的要件が検討され、基本設計書が作成された。

3.2.5 令和2年度（2020年度）ASV推進計画の活動概要

第6期ASVの最終年度となる令和2年度（2020年度）は、前年度と同じ体制で目標とする成果を達成するために活動が行われた。各WG及びSWGは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、Web会議等で開催され、各種の検討事項について検討を進められた。

ドライバーモニタリング（眠気・居眠り検知）システム基本設計書（案）及びドライバー異常時対応システムの3つの基本設計書の改訂第1版（案）についてメール審議が行われた。

分科会及び推進検討会については、令和2年（2020年）10月26日に第6回先進安全技術普及分科会、同年10月30日に第7回将来技術実用化分科会、同年11月13日に第7回ASV推進検討会が開催され、それまでの活動報告及び今後の進め方について承認を得るとともに、審議項目の、混在交通下に自動運転車を導入した際の影響及び留意点の検討、自動運転システムの事故削減効果評価の検討、ドライバー異常自動検知システム基本設計書 姿勢崩れパターンの閾値改訂（案）、ドライバー異常時対応システム／ドライバー異常自動検知システム基本設計書・附則 作動データ記録装置設計書（案）、ドライバーモニタリング（脇見等検知）システム基本設計書（案）について、委員の承認を得た。

さらに、令和3年（2021年）3月18日に第7回先進安全技術普及分科会、同年3月19日に第8回将来技術実用化分科会、同年3月24日に第8回ASV推進検討会が開催され、第7回の推進検討会後の活動となる「ASV技術の共通定義書における運転自動化レベル3以降の取扱いにおける課題・留意点（案）」、「周辺環境の認識向上に係る検討（案）」、「ドライバー異常時対応システム 自動誘導型コンセプトの検討（案）」の報告が行われたほか、第6期ASVの活動報告書について説明が行われ、承認を得た。

◆令和2年度（2020年度）のメール審議について

第7回ASV推進検討会開催前の令和2年（2020年）10月に以下の基本設計書に対するメール審議が行われ、承認を得た。

➤将来技術実用化分科会からのメール審議報告

- ・ドライバーモニタリング（眠気・居眠り検知）システム基本設計書（案）
- ・ドライバー異常時対応システム（減速停止型）基本設計書 改訂第1版（案）
- ・ドライバー異常時対応システム 発展型（路肩等退避型）高速道路版 基本設計書 改訂第1版（案）
- ・ドライバー異常時対応システム 発展型（路肩等退避型）一般道路版 基本設計書 改訂第1版（案）

◆第7回ASV推進検討会

令和2年（2020年）11月13日開催（Web会議）

議題

（1）先進安全技術普及分科会からの活動報告

安全技術のあり方検討WG及び普及戦略検討WG活動における進捗状況等について分科会長より報告が行われた。以下の審議・報告項目について委員の承認を得た。

➤安全技術のあり方検討WG

- ・混在交通下に自動運転車を導入した際の影響と留意点の検討
- ・自動運転システムの事故削減効果評価の検討

➤普及戦略検討WG

- ・実用化ASV技術の一覧及び搭載車種一覧の更新
- ・海外でのASV技術及び自動運転技術の普及・啓発活動の状況調査
- ・新たな啓発媒体等、今後の啓発活動検討

（2）将来技術実用化分科会からの活動報告

ドライバー異常・監視技術検討WG及び自動認識技術等検討WGにおける活動進捗状況について分科会長より報告が行われた。以下の審議・報告項目について委員の承認を得た。

➤ドライバー異常・監視技術検討WG

- ・ドライバー異常自動検知システム基本設計書 姿勢崩れパターンの閾値改訂（案）
- ・ドライバー異常時対応システム、ドライバー異常自動検知システム基本設計書・附則 作動データ記録装置設計書（案）
- ・ドライバーモニタリング（脇見等検知）システム基本設計書（案）
- ・ドライバー異常時対応システム 発展型（路肩等退避型）高速道路版 基本設計書についての車両挙動・車外報知評価

➤自動認識技術等検討WG

- ・ラストマイル自動運転車両システム ODD 拡張の考え方について
- ・周辺環境の認識向上に係る検討 車両側による検知範囲、精度向上に向けた課題抽出（途中経過）

◆第8回ASV推進検討会

令和3年（2021年）3月24日開催（Web会議）

議題

（1）第6期ASV推進検討会の活動概要

第6期ASV全体を通しての活動概要と成果、次期ASV推進計画に向けての課題等が報告された。

（2）先進安全技術普及分科会からの活動報告

安全技術のあり方検討WG及び普及戦略検討WG活動における第6期ASV全体を通しての活動概要と成果について、分科会長より報告されるとともに、以下の審議項目と併せて委員の承認を得た。

➤普及戦略検討WG

- ・ASV技術の共通定義書における運転自動化レベル3以降の取扱いにおける課題・留意点（案）

（3）将来技術実用化分科会からの活動報告

ドライバー異常・監視技術検討WG及び自動認識技術等検討WGにおける第6期ASV全体を通しての活動概要と成果について分科会長より報告されるとともに、以下の審議項目と併せて委員の承認を得た。

➤ドライバー異常・監視技術検討WG

- ・ドライバー異常時対応システム自動誘導型コンセプトの検討（案）

➤自動認識技術等検討WG

- ・周辺環境の認識向上に係る検討 海外動向調査（案）及び認識向上に資するための課題まとめ（案）

4. 第6期ASV推進計画を紹介するパンフレットの制作

ASV推進計画の取り組みを自動車ユーザーや国民に広く周知し、ASV技術や自動車の安全対策への理解と普及を促進するため、第6期ASVのパンフレットを作成し、第45回及び第46回東京モーターショーの出展ブースで配布した。また、パンフレットは国土交通省の自動車総合安全情報サイトへの掲載も行った。パンフレットの日本語版及び英語版を資料編の資料1-1及び資料1-2に掲載する。東京モーターショー企画については「第3章 普及戦略検討WG活動報告書」を参照のこと。

5. 資料

資料1-1 第6期ASV推進計画パンフレット（日本語版）

資料1-2 第6期ASV推進計画パンフレット（英語版）